

今工会報

第 3 8 号

発行所
今 工 会 事 務 局
☎557-0024
大阪市西成区出城1-1-6
大阪府立今宮工科高校内
電話 06 (6631) 0055~7番
編集発行人 吉田 信夫

今工100周年を前にした総会、多くの皆さんのご参加を期待します

今工会会長 峯山 昭範

今工会会員の皆さん、お変わりなく益々お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

本年は、学校創立100周年を前にして開かれる総会です。皆さんにお会いし、懇談できますことを心より楽しみにしております。

我が母校も、大正3年に府立職工学校分校として創立以来、今宮職工学校、今宮工業学校、今宮工業高等学校、そして今宮工科高等学校と改称され現在に至っております。母校の名前が変わっても今工の卒業生であることに変わりはありませんし今工同窓会としての私たちは、今まで以上に友情と絆を深めてまいりたいと思います。

本年の総会は、特に大事な総会です。100周年を前にして、これからの2年間で十分準備し100周年記念事業を大成功させるため力を合わせたいと思います。皆さんの積極的なご参加をお願いするとともに、特に若い会員の皆さんのご参加を期待しています。よろしくお願いたします。

昨年10月に学校、PTA、今工会が集まり、創立100周年記念実行委員会が発足しました。今工会では役員会で検討を重ね、100周年記念実行委員会、100周年記念事業基金募集委員会等が発足する予定にしています。

今年の3月「PTAだより」の一面に、「夢や希望のあるかぎり、君たちにできないことはなにもないんだ」という卒業生に対する強烈なメッセージが掲載されておりました。スコットランドの文人、サミエル・スマイルの書「西国立志編」は、明治の青年がむさぶるように読んだベストセラーですが、スマイルは、青年に「夢と希望」を持ってと激励し、「断じてやると決めれば、必ずできる。できないのは無理だと決めつけているからだ」などと強いメッセージを贈っています。

厳しい社会情勢ではありますが、100周年事業の大成功と母校の発展と会員相互の親睦を深めるために、今工会でやるべきことを決め、「必ずできる」の精神で進んでいきたいと思ひます。これから大いに議論していきたいと思ひますので、皆さんのご協力をいただきますようお願いいたします。



2012年 今工会総会のご案内

今年は、100周年を前にした総会です。ぜひ、会員の多数のご参加で、親睦を深め今工での思い出を語り、100周年に向け皆さんのご意見をいただけたらと思ひます。

記

日時 10月28日(日) 11時

場所 「敦煌」道頓堀通り

会費 5000円

同封の返信はがきで

10月10日までにご返事お願い致します。



《ご 挨拶》

「『夢創造』の教育力と

確かな進路実現力を持つ、 リーディング工科高校」を目指して

学校長 高嶋 保

今工会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、本校の教育活動の充実・発展に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

申し遅れましたが、私は、昨年4月に校長として着任いたしました。何とぞよろしくお願い申し上げます。

昨年3月11日に東日本を未曾有の大震災、大津波が襲い多くの人々の尊い命がなくなりました。さらに福島原発事故が重なり不安な状況がまだに続いています。亡くなられた方々へのご冥福を祈るとともに、一日も早い現地の復旧復興を願わない日はありません。

そんな中、本校生徒自治会とPTAの皆さん、教職員が協力をして義援金を集め日本赤十字社を通して送金いたしました。

また、機械系3年生の課題研究授業で生徒たちが「学んだ専門知識を生かして何か役立つことをしたい」ということから放置された自転車を再生し、石巻市立女子商業高校と宮城県立水産高校、さらに宮城県災害ボランティアセンターを通して仮設住宅にお住まいの方々に贈らせて頂きました。ささやかな行動ですが、「人を思いやる」という大切な気持ちと今工の歴史の中で培われてきたボランティア精神（自発的、自主的）を現す意義のある行動と思っています。

本校は2年後に創立100周年の佳節を迎えます。現在、今工会会長峯山氏に委員長になっていただき実行委員会を立ち上げ今工会、PTA、学校で準備を始めています。どうぞ、その節にはよろしく願い申し上げます。

多くの先輩方が築いてこられた100年という誇りと伝統を胸に、新しいことにも果敢にチャレンジして更なる飛躍を遂げようと考えています。現在本校は、「『夢創造』の教育力と確かな進路実現力を持つ、リーディング工科高校」をめざして日々研鑽を積んで専門教育に取り組んでいます。

「夢創造」は、生徒の夢を育み、生徒が夢に向かって歩みだせる教育を進めようと考え大切にしてきたテーマです。そして、確かな進路実現を約束する専門高校として、大阪の工科高校をリードしてまいりたいと考えております。



いま生徒たちは、資格取得や部活動に励み、輝かしい成果を出しています。電気工事士合格率では昨年、全国14位、機械系技能士3級・2級に多数の生徒が合格をいたしました。ものづくりコンテスト大阪大会優勝や、運動部では全国大会や近畿大会への出場が決まったクラブも出てまいりました。また、地域産業との連携によるインターンシップや企業実習に参加する生徒も年々増えており、このことは、生徒に将来を見据えた豊かな職業観や勤労観が醸成されていくものと確信しております。

さらに、本校で学んだ専門知識を深めるべく大学への進学希望生徒が増加しています。こうした生徒たちのために進学のための科目選択や土曜日を活用した補習講習が盛況です。お陰様で昨今の経済不況にありましても、今工生は就職、進学ともにほぼ全員が進路を決めて卒業しています。こうした今工生の活躍は多くの先輩方が、産業界、行政、教育界などで中核となって活躍されておられることが、現役生に大きな励みとなっているものと思います。グローバル化が進んだ現代社会の厳しさは言うまでもありませんが、生徒たちが今工で培った「ものづくり精神」とともに夢や希望を忘れず、校歌にあります「堅忍不拔」の精神でもって厳しい現実にも果敢に挑戦していく姿勢を身に付けてくれることを切に願っています。

今工は、今後も有能な技術者、工業人を育成することに全力を傾けていく所存です。

最後に、今工会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、今後ともに本校へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたしましてご挨拶いたします。



根来則義准校長



柴谷誠一事務部長



辻尾育功全教頭



横谷啓介定教頭

平成23年度 会計決算書

【一般会計】

1.収入の部

前年度繰越	25,539,099
会費収入 (全日制253名, 定時制86名)	2,365,279
銀行利息	8,881
雑費収入 (今工会理事会会費)	172,500
寄付	5,063
合計	28,090,822

2.支出の部

庶務費 庶務費総計	538,354
総会・幹事会費	203,333
学校行事関係費	217,500
職員転退職記念品費	85,000
慶弔費	31,000
庶務部費	1,521
編集費 編集費総計	0
会報発送諸費	0
会報郵送費	0
会報発行諸費 (会報代含)	0
編集部費	0
事業費 事業費総計	15,000
支部・クラス会補助費	15,000
広報関係費	0
部活振興費	0
事業部費	0
会計費 会計費総計	735
会計監査費	735
会計部費	0
事務局費 事務局費総計	139,303
事務局費	94,879
企画室費	9,469
調査・通信・交通費	34,955
予備費	0
合計	693,392

3.差引残高

収入額	28,090,822
支出額	693,392
差引残高	27,397,430

(平成24年度へ繰り越し)

[平成23年度 周年記念事業基金]

収入の部

前年度繰越金	2,285,773
銀行利息	690
合計	2,286,463

(次年度へ繰り越し)

[平成23年度 部活動振興会援助基金]

収入の部

前年度繰越金	2,171,671
一般会計より	0
銀行利息	1,052
税金	△372
合計	2,172,351

支出の部

電気系 もの作りコンテスト 近畿大会	101,350
機械系 もの作りコンテスト 近畿大会	79,233
定時制 陸上部 全国大会援助	40,590
合計	221,173
差引残高	1,951,178

(次年度へ繰り越し)

以上の通り報告いたします。

平成24年6月8日

今工会 会長 峯山昭範 (印)
 会計 西田清之 (印)
 会計 森本克己 (印)

平成24年6月8日

今工会 会計監査委員 石田修 (印)
 会計監査委員 坂本清 (印)
 会計監査委員 末森保志 (印)
 会計監査委員 松田清 (印)

監査の結果 適正であることを認めます。



全日制



定時制

毎年卒業時各クラスから今工会幹事を選んでもらっています。
 若い会員のみなさんの参加を期待しています。

毎年、卒業時各クラスから全日制2名、定時制1名の幹事を選んでいただいています。
 そして卒業式の少し前に、集まってお話し、今工会の説明と今後の今工会での役割について、役員との懇談会を実施しています。

まだ幹事の位置づけや活動の場が不十分ではありますが、若い会員の皆さんの参加でこれからの今工会を盛り上げていただけたらと思っています。

会員だより

ものづくりの基礎

S57全機 西尾 修

原稿依頼を頂き、卒業からもう30年になることに気づき、月日の経過の早さに驚いております。

私たちの期の入学は、ちょうど体育館ができたばかりだったため、新築の体育館での入学式が強く印象に残っています。授業では、機械好きな自分は、旋盤などの実習や専門教科ばかり思われます。

クラブ活動は剣道部に所属し、厳しかった夏の合宿がなつかしく思います。

現在私は、汎用旋盤・シェーパー（形削り盤）で加工の仕事をしています。母校を卒業後、工作機械のメーカーに就職し、その後、家業の鉄工所を継ぎました。

「いつか自分で造った機械で削りたい」という夢があり、昨年、汎用フライス盤を造りました。設計から部品加工・組立までほぼ自分でしました。念願がなかった瞬間でもあり非常にうれしく思いました。

最近、団塊世代大量定年ともかさなり、技術伝承が問題になっています。私もこの問題を憂慮しています。

残念ながら、昔の職人の技術が軽く見られがちではないでしょうか。今日では、工作機械は、NC機が主流ですが、汎用機で基礎を学びそれからNC機を使った方がいいように思います。

剣道では「練習」ではなく「稽古」といいます。意味は、古きを考えるということです。何かの壁にぶち当たった時やどうしてもうまくいかないときに、もう一度、基本に帰って考え直すということです。不幸にも基本がしっかりできていない人はこの成長のサイクルがうまく回らないのです。このサイクルがものづくりの喜びをも生むと思います。ほとんどの人が学校での実習で工作機械に初めて触れます。基本をしっかり身につけ、今後の土台にする意味でも工科高校が重要な役目にあると思います。

今後の夢は、各地にこの技術伝承をしていくことです。

そしてものづくりの大切さ、楽しさ、奥深さを多くの人に体験してもらいたいです。

末筆になりましたが、今工会報でこのような思いを伝える機会を与えてくださったことを心から感謝しております。蛇足ですが、4つ下の弟も今工の機械科を卒業しています。



我が人生を振り返って

S32定機 河野克己

私は、昭和12年生まれ丑年です。大阪は天王寺区出身です。

小学校2年生の時父が出征し南方へ送られました。その折まだ早いかなといいながら百貨店で、地球儀を買ってもらったのを覚えています。小学校4年頃、祖父の世話で南河内郡丹比村郡戸というところへ疎開しました。そこは寺の間借りで、棺桶が置いてあり怖い思いをしました。近所の子に“都会っ子”とよくいじめられました。

昭和19年父が戦死しやがて終戦になり、元の住所に戻り天王寺小学校から天王寺中学校へ進み、高校だけは卒業したいとの思いから今工機械科に2年間通いましたが、経済的に続かず、定時制に編入しました。定時制は辛く息子だけは同じ思いをさせたくないと思いました。

私は4人兄弟の長男、卒業後は収入の多い造船所で7年間勤め、ここで溶接をマスターしました。

25歳の時ガレージを借り、河野熔工所として独立しました。26歳で結婚しましたが、よく働きよくできた妻でアゲマンと言っていいでしょう。3年間昼は昼ぼし、夜は夜ぼし、努力の結果105坪の住宅兼工場を取得し、正興製作所として鋼製脚立の製作を開始し、昭和48年に株式組織になりました。

55年に「公害企業」に指定され、私の企業など15社が臨海工業団地に移転しました。当時40歳で、仮設機材・保全機材メーカーとして飛躍することができました。その間日本列島改造論、オリンピック、花博、学研都市、関空、バブル景気がありました。

そしてその後、阪神震災復興、現在東日本大震災の復興資材を製作中です。私も寄る年波、業務は息子に任せ工業団地の理事長として、まとめ役を担っております。

早足で書いてきましたが人生いろいろあります。組合事務所の応接間には「和を以て、徳を以て、福を以て、情を以て」と私の信条を額にかざっております。

しかし、思うに極論になりますが「カネこそ総て」の感が否めないこれまでの人生でした。しかし、今は何をしても、何処にいても幸せを感じる今日この頃です。

今工時代は鑄造科で、スポーツはソフトボールをやりました。工場の照明は望む明るさの半分ぐらいだったと思います。勉強より収入が先行する生活でしたが、卒業式のうれしかったことは今でも夢にでてきます。気力と努力以外何物でもなかった高校時代でした。当時、金井先生には、やさしく接して下さりありがとうございました。現在の定時制の諸君頑張ってくださいね！！



今工卒66年に寄せて

S21高2電 茂呂 實

金沢大学法学部ゼミ生の巣立ちに際しての質問「先生、公務員としての心がまへは?」「うん、それは『三ズ』、但しこれは昔の話、これからはこれを打破すること」、「え、『三ズ』それは?」「すぐ判るよ、折があれば例の黒澤の映画『生きる』を見給え」卒業生との会話の一コマ。

私が大卒の際一般企業や公務員への途を選ばなかったのは、自分に納得できない指示や命令にはどうしても従えない頑固な性格からだった。加えて昭和一桁生まれで、文字通り忠君愛国という国策に洗脳されていた時代から180度の思想転換を迫る時代背景が、政治不信と相まって、物事を単純に信用できないカタクナな性に油をそそいだ。今工卒業時、私を学問の途へ、従って大学進学へと駆り立てたのも当時の時代背景や価値観の転換に大きくかかわっていて、その理由はいろいろあるが、その最大の理由は、新憲法の制定により、国家・社会体制が革命的激変を招来すると痛感したからです。

「光陰矢のごとし」とか、今工卒66年、越の国に根を下ろしてすでに半世紀以上という時の流れに身をおいて、不思議と脳裏に鮮明に焼き付いているのが、電気科口述試験問題の一つ。当時はペーパーテストでなく口述試験だった。板書には半径5cmの円が画かれ、「この面積を答えよ」。「はい、それは78.5cm²です」私は即答した。 $S(\text{円の面積}) = \pi r^2$ (rは円の半径)という公式を記憶していたとしても、ペーパーテストならともかく、暗算での即答は困難。因みに「半径5cmの球の体積は?」と問われれば「523cm³」と即答できたはずだが、これは出題されず。仮に $V(\text{球の体積}) = 4/3 \pi r^3$ の公式を暗記していても、暗算での即答は、その道の達人でないと無理。これが答えられたのは当時の小学校の先生の指導の賜物と思う。

(それは円の面積・ $S = \pi r^2 = \pi (R/2)^2 = 3.14/4 \times R^2 = 0.785R^2$ すなわち円に外接する正方形の面積の0.785倍になると、球も同様 $V = 0.523R^3$ と・・・)

昭和21年卒の同窓生でこのときのことをどの程度記憶しておられるか、それはともかく同じ校門をくぐった



メンバーの多くは、昭和20年3月の大阪市や木造校舎の焼失という大空襲、続く敗戦時の混乱等により、大半が消息不明。

そのような中であって最近まであるいは現在も続いている同窓生が三人。一人は(旧制)立命館予科修了後、小、中学校教員、京教組役員を経て教育評論家として活躍した君和田和一君。しかし残念ながら11年前、筋委縮性側索硬化症という難病で他界。彼は文学的才能に勝れ、昭和18年開催の連合体育祭でも電気科の応援歌を披露、大喝采を浴びた。二人目は、京都府山城町でドライブイン経営、現在は海外旅行やスキー、句作、絵画等悠々自適の生活をエンジョイしている風来坊、山本三七雄君。彼はスキーの帰途、我が家に宿泊、彼一流の珍説を披露。三人目は、今工に近い山王町で婦人服商を経営。8年前、10年前の同窓会で幹事として行き届いた世話女房役を買って出る謹厳実直家、岡田勝巳君。彼も年齢の性、最近閉店し悠々自適の生活。8年前の同総会は鬼籍に入った人も多く参加者13名だった。

私は平成4年3月、金沢大学法学部を定年退職の際、研究・教育活動が評価され名誉教授の称号を授与され、また福井県・市の行政活動の一端にも、関わり平成22年春の授勲の際、瑞宝中綬賞を受賞する栄に浴した。

私も含め「電気科卒」ながら「電気」と全く無縁の生活を送ってきた。これも時の流れの勢力というべきか。「往く川の流れは絶えずして、然ももとの水あらず」との先哲の教えをしみじみと身に浸みる齢にあって、お互いいつまでも「老健」でありたいものだ。



昭和18年、同級生の予科練志願の門出か、恩師の出征送別会かの同級生との記念写真。前列中央・電気科科長又野重信先生、向かって前列右端・君和田君、2列目右端・山本君、無帽者の前が岡田君、後列右端が私です

母校生徒の活躍

○課題研究(生徒や教師から出された課題に賛同した者が3単位でとりくむ3学年の科目)昨年機械科で、

「技術を生かした被災地支援ができないか」の教師の提案に10名が賛同。校内の持ち主不明の自転車を修理して送ることを課題にし3回にわたり寄贈。3回目は11月20~23日修理自転車を宮城県石巻へ寄贈。PTAの援助で5名が石巻に届け、2つの高校と交流し、ボランティア活動にも参加。ボランティア・スピリット賞実行員会のブロック賞も受賞。



○第21回大阪府公共建築設計コンクールで建築科・神山貴成君が佳作を受賞

○昨年軟式野球部実業大会で準優勝

○第16回全国高等学校日本拳法選手権大会団体準優勝

○春季バレーボール大会 男子2部に昇格

○軽音楽部「スクールライブショー」バンドバトル関西大会に出演決定(6月15日)。

7月15日NHKで放映される

○第46回全国高等学校定時制・通信制陸上競技大会男子三段跳 吉岡明典君 3位

インタビュー

今工・日本拳法部OB会・八志会

今工日本拳法部OB会・八志会の道場を訪ね、館長の渡辺武治氏（S28機械卒・元今工教諭・今工会顧問）と坂本清氏（S46年電気卒・今工会会計監査）、東三四朗氏（S46年印刷卒・今工会常任理事）、川岸正典氏（S50年機械科卒・今工会理事）、肝月隆氏（S51年機械卒）川端幹夫氏（昭和59年機械卒・大阪市交通局勤務）、石井二郎氏（昭和63年印刷科卒）の6名のOBの方々にインタビューし、練習を見せていただきました。

道場は大阪市平野区長吉出戸4丁目にあり、なかなかしゃれた建物です。1階が館長室及び事務所で2階が道場になっています。

今工日本拳法部は、渡辺先生が監督として昭和42年9月同好会として発足し、44年4月正式に部に昇格し本格的な活動が始まります。猛練習を重ねるなか、はやばや45年の全関西選手権及び全日本選手権で団体優勝します。46、47年準優勝、48、50年3位と最初の全盛期を築きます。

こうしたなか、昭和46年2月拳法部OB会・八志会が作られます。石田（旧姓宇野）修氏（昭和43年機械卒・現今工会会計監査・拳法部発足の初代主将で後の道場建設の立役者）が初代会長に就任されます。八志会の名は、日本拳法八要“日本拳法八要をかね修めるところ、拳法も、人も、ともに完成の域に到達する”とする八要を志すといことで、八志会と命名したそうです。また道場の正面に掲げられている掛軸「無心武心」は道場の設計、監修をされた、吹田市日本拳法連盟の前屋舗先生よりの寄贈で八志会応援旗にも入れられています。

OB会ができ後輩への指導援助が行われる中、部長・渡辺先生、監督・中村安治氏のもと、全国大会で52年、53年、55年優勝、54年準優勝、56、57年3位と第2の全盛期を迎えました。

その後も部員数には浮沈みはあるものの、活発に活動し、現在川端幹夫氏がコーチとして後輩の指導に当たっておられ、今年度全関西選手権大会で準優勝しています。また川端氏の息子さんも現在今工の生徒さんで日本拳法部で頑張っておられます。今工拳法部の全盛期が三度来ることを期待したいと思います。



石田（旧姓宇野）氏と会館



道場での渡辺館長とOB会メンバー

また最近、スポーツ推薦で大学への門戸が広がり、関西及び東京の有名私学にも進学し、日本拳法部の中心メンバーとして頑張っていると話されていました。何か、日本拳法は怖いという印象を持たれがちですが、防具をつけ、防具も改良され怪我のないスポーツ競技なのでぜひ若い方に日本拳法をやってほしいといっておられました。

念願であった道場が、今工拳法部創設30周年、OB会・八志会創立25周年にあたる平成9年2月、石田（旧姓宇野）氏を中心にOBの努力で完成。OBによってこうした道場が作られているのは全国でもここだけでしょうと誇らしげに話されていました。渡辺氏が館長を務められ、OBによって維持されています。週に2度月曜日と木曜日に、OBを中心に地域や友達と共に10人前後が練習しているとのこと。卒業後も日本拳法八志会本部道場として、全日本拳法社会人選手権大会などに参加して、優勝3回、準優勝、3位を各々2度を達成しています。

ちょうど練習日に伺いましたので、道場では練習が行われ、小学生も一人指導を受けていました。



在校生を指導されるOB・川端氏

平成二十二年度総会



平成二十三年度理事会



クラス会

先生のご冥福をお祈りします

S33全電 木下一成

原稿の依頼を受け、原稿を送った矢先に、会報担当の吉田氏から先生の悲報の連絡があり、追悼の文章に書きかえることになりました。2年前の同窓会が先生とお会いする最後となってしまいました。ご冥福をお祈り申し上げます。

私たちのクラス会は「お化け会」といいます。四ッ谷先生は3年間担任で、名称の由来は読んで字の如しです。



開催は不定期でしたが、今までに10回ぐらい開いたでしょうか。平成22年4月21日にホテルアウィーナで開催しました。

そのとき恩師は84歳とご高齢の上、神奈川県茅ヶ崎という遠方におられる関係から、6か月前から日程調整を重ね開催することができました。

何よりもうれしかったのは、元気なお姿の恩師にお会いでき、またクラスメートと会えたことです。クラスは40名でしたが、参加者18名、欠席11名、連絡不明9名そして物故者が2名という状況でした。

久しぶりの恩師の「点呼」で会が始まりました。皆、昔に戻ったような感じで「ハイ」と元気な声で返事をしていました。

その後、懇談に入り各自の近況報告で盛り上がりましたが、大病を患った者、外国へ赴任し転職を繰り返した者、学んだ電気と関係のない職種についての者、中でも古希を迎えリタイヤ組が多い中で現役続行中という人には頭が下がる思いでした。私は出向も含め45年間関電産業KKでサラリーマン生活を過ごし、今は趣味の釣りやゴルフ、ウォーキングを楽しみ、子ども見守り隊や秋祭りなど地域活動に参加しています。

楽しい時間は過ぎるのが早いもので、記念写真撮影、次期幹事指名と3時間があっという間に過ぎてしまいました。そのとき恩師と幹事の間では2年後にと決めていたようです。ですから「この記事が載り、会報が届くころには開催されているかもしれません」と書かせていただきました。しかし悲報を聞き、恩師とのクラス会はもうできないのだと寂しい思いです。恩師はお亡くなりになりましたが、今後も絆を大切にクラス会を続けたいと思います。

母校教職員だより

早船倉之助(号・白洗)先生の碑

この碑は、少し昔の話になりますが昭和48年、印刷科の早船先生の喜寿の祝いとして、故印刷工業科の井上清一郎先生を中心に、卒業生の有志で吉野山に建立されたものです。

遅くなりましたが、最近この碑のことがわかり、関係者からいろいろ資料を送っていただきました。

昭和48年、早船先生の喜寿祝い記念会が作られ、18名の発起人の呼びかけで、賛助金が集められました。



昭和48年頃の早舟先生



100余名の方々の賛助金が集まり、句碑を吉野山に建立し、除幕式と祝賀会が吉野山で行われました。

そして残った賛助金は白洗句集「土鈴」の製作賛助費として寄贈されました。

「土鈴」のあとがきには、「昭和19年長男

戦死、同20年終戦、それからすでに27年が過ぎようとしています。

退職の際には、卒業生有志のご協力により句集『松の芯』が出版されたが、この度は、退職後から今日の20年間の句を喜寿自祝の意味で上梓することになった。

実は当初この句集は自分の独力で作り、戦死した長男の霊に捧げると同時に、退職当時お世話になった諸君へ差し上げる心算であったが、結局は造詣深い同窓生のご協力を賜ることになり誠に申し訳なく、感謝を表する次第である。」と書かれています。

秋咲くと句碑の除幕と待つばかり
避暑がてら高野山へ句碑掲げ
汗にまみれチョウにまみれ教師われ
黒板の一角より隙間風
卒業や送辞答辞の詩二篇



句集「土鈴」より

母校通信

建築系で取り組んでいること

学校改編により工業高等学校から工科高等学校へとなり、今年で早や8期生を迎えました。教育課程も見直しをされていく中、この数年では以下のような取り組みをしています。その報告をしたいと思います。

1. 実践授業 ～職人の”美学”を伝える～

関西鉄筋工業協同組合様の全面的な協力をいただき、鉄筋の組立体験も今年度で3回目の実施（本年6月2日）となりました。同組合理事長が挨拶のなかで、「職人のプライドを感じ取って欲しい」という熱い思いを生徒に伝えられ、3年生生徒に真剣にかつ丁寧にご指導いただきました。生徒の反応もよく、最初は不慣れなハッカーでの鉄筋結束に夢中に取り組んでいました。

また、関西シーリング工事業協同組合様の全面的な協力をいただき、防水工事の一部である目地へのシーリング工事体験を昨年度から2年生を対象に初めて実施しました。



鉄筋組立の実践授業（3年生）



シーリング工事の実践授業（2年生）

両協同組合様には継続的にご協力をいただき、専門職の方々の「我々の業界、仕事内容を知って欲しい」という思いと、「授業では経験できない貴重な体験」の効果の実現を目指し、生徒の進路実現の一助となることを期待しています。

2. 課題研究 ～それぞれの思いを形にかえる～

課題研究のテーマの一つである「木材加工」の中で、年度をまたぎながら継続的に「こどもだんじり」の製作に取り組んでいます。初年度は土呂台まで、昨年度は土呂幕の彫刻と欄干を、そして今年度は木鼻彫刻や屋根部分に取りかかっています。本校職員だけの指導ではなく、特別非常勤講師として現職の宮大工の先生をお招きし、「匠の技の伝承」につとめています。

本校生徒の通学区域の関係で、だんじりについては興味や関心の強い生徒が多く、講師・職員に指導されるなか、任された部分を熱心に加工しています。

また、他のグループでは「段ボールによる造形」ということで、企業との情報共有をしながら、立体造形のコラボレーションをはかっています。具体的には生徒が作成した展開図を立体物として商品化を目指すというものです。どのような形におさまるかは不確定ですが、興味ある取り組みです。



製作風景

3. 資格取得 ～スキルアップを目指して～

同じ「ものづくり」であっても、建築系で学ぶ建築物は、その中に人間の生活があり、財産でもあり、社会基盤そのものです。しかし、資格取得について在学中に取得できるものに制限があります。その中、昨年度はCAD検定では2級1名を含む延べ14名の合格者をだすことができました。希望者のみの受検ですが、合格率は毎年高いレベルを保っています。また、色彩検定でも6名の合格者があり、今年度の呼びかけに対し2年生からも受検希望者がでるなど、生徒の意欲も向上しています。今後も個人のスキルアップとともに意欲の向上をはかりたいと思います。